

小施策評価シート (平成28年度実績評価)

施策コード	4	施策名	健康づくり・医療の充実		
小施策コード	4-2	小施策名	保健・予防の推進		
小施策 主管課等コード	069300	小施策 主管課等名	保健予防課		
評価責任者名	梅原 格		内線番号	691-6620	
評価シート作成者名	高橋 信朗		内線番号	691-6621	

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
3大死因*1の死亡率(人口10万対年齢調整死亡率*2)*3	↓	割合	225.6	213.7	-	223.3	221.1
まちづくり評価アンケート調査「身近に健康について相談できる人がいる」と答えた市民の割合	→	%	90.8	90.8	84.7	90.8	90.8
まちづくり評価アンケート調査「いつでも受診できる医療機関がある」と答えた市民の割合	→	%	90.9	89.8	86.5	90.9	90.9

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていることを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

*1 3大死因

悪性新生物, 心疾患, 脳血管疾患のこと。

*2 年齢調整死亡率

人口構成の異なる集団間で比較するために, 死亡率を一定の基準人口にあてはめて算出した指標である。

*3 平成28年度の実績値は, 30年3月に公表予定。

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民	病気にならないようにする。
現状と課題	社会情勢の変化に伴い、うつ病や自殺者が増加しており、こころの健康づくりが重要となっている。 乳幼児や児童、高齢者などが感染症にかかったり、病気がまん延することを防止する必要がある。
取組の方向性	市民が病気にならないように、感染症の発生や流行の予防に努めるとともに、疾病予防のための各種予防接種を行う。また、精神保健の向上を図るなど、健康を保つ活動を推進する。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
全結核罹患率（人口10万人対）	↓	割合	9.7	9.0	9.8	8.7	8.0
乳幼児予防接種の接種率* ¹	↑	%	92.3	91.0	97.2	95.0	100.0
高齢者予防接種の接種率* ²	↑	%	53.8	49.6	49.1	57.0	62.0

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

*¹ 二種混合，四種混合，麻しん風しん混合及びBCGの平均

*² インフルエンザ及び肺炎球菌の平均

Step 4 市民ニーズの把握

盛岡市まちづくり評価アンケートの結果（平成29年3月）によると、「健康診断や予防接種，健康相談のしやすさについて」の現在の満足度については、「とても満足」及び「やや満足」を合わせると44.1%と前年度から1.3ポイント上昇しているが，半数までは届いていない。また，今後の重要度については「とても重要」及び「やや重要」を合わせて77.9%に上っていることから，一層の施策の推進が求められている。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	市民の健康が保持されるように積極的に事業を推進する。	35
	国・県・ 他自治体	法定事務においては、円滑な事業の推進のため、国・県、市の連携が必要とされる。	35
	市民・ NPO	健康づくりに関心を持ち、健康保持のための活動に取り組む。	30
	企業・ その他		

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

法定事務として実施している事業は、国・県、関係団体等との連携により積極的に事業を推進し、他の事業についても市が実施主体となって事業を推進するものである。また、市民一人ひとりも日常生活において健康への関心を高めることや、健康づくりのために取り組みを行うことも重要であることから、各役割の比重については現状維持とする。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

「感染症対策事業」及び「予防接種事業」等において、感染症の拡大防止及び予防接種率の向上につなげるため、広報紙、啓発事業、個別通知等を実施する。

2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済， B：平成29年度に着手（予定含む）， C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
結核検診の結果、要精密検査となった対象者へ受診勧奨を行う。	対象者に対し、受診勧奨通知を行った。	A
定期予防接種の対象者に対し、周知を行う。	予防接種対象者に対する個別通知のほか、広報及びホームページにより市民への周知を図った。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 全結核罹患率が低下傾向にあり、常に全国平均を下回る状況となっている。
- ・ 乳幼児予防接種の接種率が高い水準を維持しており、希望者が接種する高齢者の予防接種の接種率も50%前後の割合で推移している。

(2) 成果をあげた要因

- ・ 「感染症対策事業」において、結核レントゲン検診の実施、広報等による啓発、医療機関との連携等により、市民に結核予防の重要性を周知したことによるものと考えられる。
- ・ 「予防接種事業」において、予防接種の重要性の啓発や、高齢者に対する個別案内などにより、感染症予防に対する市民意識の向上に繋がったものと考えられる。

(3) さらに成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

- ・ 感染症の拡大防止及び予防接種の接種率向上のため、対象者及び市民への周知・啓発を継続していく。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

- ・ 結核患者における高齢者の割合が全国的に増加傾向にある。
- ・ 高齢者の定期接種の接種率が伸び悩んでいる。

(2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 若年時に感染し、休眠していた結核菌が高齢化に伴う免疫低下などにより発症することが原因となっている。
- ・ 高齢者の定期接種は、本人に予防接種を受ける法律上の義務がなく、個人の発病または重症化予防に重点が置かれ、希望する者が接種を受けている状況となっている。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 結核検診の結果、要精密検査となった対象者へ受診勧奨を行う。
- ・ 高齢者の定期接種については、対象者への広報を強化する。個別通知や医療機関でのポスター掲示等により制度を周知する。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 「感染症対策事業」及び「予防接種事業」等において、感染症の拡大防及び予防接種率の向上につなげるため、広報紙、啓発事業、個別通知等を継続する。
- ・ 高齢者の定期接種については、個別通知や医療機関でのポスター掲示等により制度を周知する。